

一歩

社会福祉法人 アルカディア

令和2年8月発行 第28号 発行元：ニューズレター委員会

対談 コロナ危機をしたたかにかつ、しなやかに生き抜く



中田 駿

1966年、早稲田大学入学(卒業は不明)、紆余曲折を経て(医)赤城会 三枚橋病院に約20年勤務。その後、(社福)アルカディア理事長 岡山県出身

三野 宏治

立命館大学院先端総合学術研究科修了(博士) 立命館大学G-COE「生存学」創生拠点リサーチアシスタント、秋田看護福祉大学看護福祉学部福祉学科専任講師 など歴任。現在、東京福祉大学准教授 大阪府出身



一端、収まるかにみえたが再び、拡大している。これが第2波かどうかは別にしてコロナ禍との闘い、共存はしばらく続きそうだ。

この状況下で東京福祉大学の三野さんと対談することになった。三野さんは福祉に限らず、社会的出来事について関心をもち、鋭い視点で語る人。今回、コロナ問題について語り、今、私たちがおかれている状況をどう捉えたらいいのか？どう対処すべきなのか？屈託ない意見交換したい。二人の話し合いは、とりとめのない対談になってしまうかもしれない...

少しでも読者諸氏の参考になればと思う。

■コロナ禍中での周囲の変化

中田●三野さんとは、日頃から福祉の事や色々と話しているけれど、今日はいつもの調子ででざっくばらんに話し合しましょう。

三野●そうですね。お願いします。

中田●今回は三野さんとの話し合いで、色々な角度からコロナ対策について意見を交わしたい。

ところで三野さん、大学は大変ですか？

三野●いやー。大変ですよ。大学では講義を担当しているんですけど、今年の5月18日からZoomを使って講義をしているんですよ。

中田●教壇には立っていない？

三野●そうなんです。自宅からモニター2つで授業を配信してます。パワーポイントで資料を映しながらの説明ですよ。授業も1コマ90分。課題を出したりグループに分けて話し合いをしてもらったりしています。生徒の人数は多い授業で30人ぐらい。もっと生徒の多い授業を受け持つ先生はZoomだとえらい大変だと思いますよ。

中田●私には想像できないですよ。パワーポイントのレジュメ資料なんて大変じゃないですか？

三野●大変です。私は手元に資料としてのレジュメを配って授業をしていくスタイルで、私がしゃべったことに対しての学生の反応を見て内容や伝え方を変えていったが、どうもZoom授業だとその反応を感じにくい。まるで電話で授業をしているような感覚。学生の反応を感じ取れない。

中田●私もZoom会議というものを試したが、三野さんの言う「電話で」という感覚はその通りだと思う。コロナ対策で法人内でも会議をなかなか開けない状況だったが、やはり顔を見て話したい。そうしないと話や議論が深まっていかない。

- 三野●そうなんです。やっぱり面と向かって顔を見たいですね。Zoom授業で資料を映すと、学生の顔が全然見れないんですわ。むしろ学生の反応云々の前に、ちゃんと画面の向こうに居るのかなと思ってしまいますよ（笑）。
- 中田●苦労しますね（笑）。この新しい授業の変化が続いていくと、教える教わる関係が薄まってしまいそうですね。
- 三野●今までとは違うコミュニケーションと考えなければやっていけない
- 中田●他の大学もそうなんですか？
- 三野●大学によっても違います。別の大学では授業をビデオに撮ってやっている。リアルタイムではないやり方ですがね。その点、Zoom授業はリアルタイムなので、質問や意見があればチャット機能でやり取りができる利点もありますかね。
- 中田●なるほど。ビデオに撮ってというのも試行錯誤ですね。
三野さんの授業で1番困っていることはありますか？
- 三野●とにかく試験が1番困ります。手元は映らないから不正もできてしまう。どないしよと思いますよ。色々な準備、対応があるんで労働力は通常授業の1.5倍に感じますよ。
- 中田●聞けば聞くほど大変ですね。授業の他に、コロナが影響していることはありますか？
- 三野●実習ですね。アルカディアさんは実習生を受け入れてくださるからホンマにありがたいですよ。今は病院実習には行けない。東京での実習はコロナの影響が本当に顕著に出ていますよ。厚労省は今の現状から、学内での演習を代替案として推奨しているが…やるのはZoomを使ってですからね。今までに経験したことのない対応が求められている。この状況を越えていけるのかと思うと…（苦笑）
- 中田●いつまで続くかわからないという不安を三野さんは感じている？
- 三野●感じています。色々不安はあるんですがね。国家試験がとにかく不安ですね。この状況になる前は、学生と廊下ですれ違うと「勉強してるかー」とか「わからないことあったら研究室にでも来てくれやー」なんて声掛けしてたんですけどね。今は対面でその声掛けすらできない。Zoomでも声掛けはできますが学生の思いや悩みがいまいち掴めない。
今年の学生は本当に気の毒ですよ。学内の先輩との関わりも少ないんですから。先が見えないですわ。
- 中田●先が見えないという点では福祉の現場も同じですね。コロナコロナで騒がれてもう5ヵ月ぐらいですかね。出口が見えない。福祉法人として、コロナ感染者を1人でも出してしまったらヤバイ。対策委員会を立ち上げ対策は徹底している。今のところ1人も出ていない。安心してはいけませんが、だんだんとこの雰囲気慣れてきてしまっている…。気を引き締めなければならないと感じています。
- 三野●法人としても大変ですよ。業務的には変わったこともあったんですか？
- 中田●業務という点では、コロナ対策が求められたときに利用者の安全確保もそうだが、現場で働く職員の安全の確保も同じくらい考えました。社会福祉法人は事業をやめるわけにはいかない。かといってテレワークに切り替えられる業務もない。人と接してなんぼの業種ですからね。市や県に職員人数を減らしつつ支援の質を確保する働き方はどうかと問い合わせたが、厚労省の通知上それは認められないとの回答だった。これは福祉サービスに課せられた宿命かと感じた。こんな状況が1年以上続くとすると職員も疲弊してしまう。しかしながら気は緩められない。いったいどんな状況が終息と判断されるのか…

■コミュニケーションの在り方を考える～新たな自分の発見～

- 中田●先ほど、「コミュニケーションの在り方」という課題が話されされたけど、この数年間を振り返ってみても「コミュニケーションの在り様」はずいぶん変化してきています。例えば、携帯からスマホの時代になってSNSとかいろんなアプリを使用したコミュニケーションが次々とひろがっている。俺などともついていけないけど…。直接、対面しなくても会話が成立する状況になって、人と人とのコミュニケーションは確実に希薄になってきている。拍車をかけるようにコミュニケーションがとりにくくなっていくことには非常に危機感を感じてしまう。コロナ以前のコミュニケーションはどうだったのか？ということも含めて検証していかなくてははいけない。
- 三野●私は自粛前から大勢に会わなくてもいいタイプだったので、必要以上に人と会いたくないと思っていました。しかし今は、ここまで人に会わないとしんどいと感じています。少し前に子供と赤城山に歩きに行ったんです。そしたらポートも出ていない、開いてる店も少ない。今までにない光景でした。その中で店の人と30分ぐらい話したんですが、そんなこと今までありませんでしたよ。お互いどンドン喋ってしまう。私はこんなに喋り好きだったかと思うほどに。人との交流を求めていたんだなと実感させられました。
- 中田●休日とはとにかくステイホームしている。本を読みひと段落して過ごす時間。何をするわけではないが色々なことが頭に浮かんできます。『自分にとって大切なものは何だったのか』って普段あまり考へなかったことを…。
しかしこんな時間も大切。自分の生活の在り様、大切なものを見つけるきっかけ。不要不急の外出自粛など、状況的には不幸なことではあるが、こんな立ち止まり方もあるのではないかと思う。

三野●大学の授業としては今年の3月半ばから色々なことがストップし、大学側としての意向を待つ時間が続いた。何もしない何もできないこの時間。事業のやり方とか色々と考えたが、まだわからない大学の方針に従わなければならないことへの不安。常に仕事のことを考え、土日すらも仕事を考える。今までとは変わりすぎて、逆に休日を感じない日々。生活を区切ることが大切なんだと実感した。そこでやり始めたのは日曜大工。特になくても成り立っている物を作っている。作っているときはその不安がなくなるんですよ。そんなに作らなくてもええやろって思われるぐらい作ってますよ（笑）。

中田●私は今年の3、4月は休日に本を2冊持って畑に行っていた。サンドイッチとコーヒーを持っていき夕方まで過ごす。コロナがなければこんな時間の使い方はなかった。

三野●本といえば、私も読書が好きでした。しかし、結婚をしてから徐々に読むことがなくなり処分してしまった本もあった。かつて読んだことのある本を買いなおして読むと新たな発見があった。これも新しい生活様式なのかと思う。

中田●若かりし頃の名画や本を見直すのもいいですね。「ひまわり」、「ドクトルジバゴ」、「ステイング」、「アルジェの戦い」とか…若き日のロバート・レッドフォード、カッコいいですね。「ひまわり」とか知ってますか？

三野●若いころだから内容までは覚えてはないんですが知ってます。「波止場」なんかも…

中田●いいですね。ジャンギャバン、渋い演技。

三野●最近、「男はつらいよ」が放映されていて、つい観てしまいます。面白い。

中田●時代が古くなりましたね。（笑）。とにかくかつての名作を見るとやはりいい。その他に、池井戸潤が書いたノーサイドゲームの小説も読んだ。彼の作品の中では下町ロケットが私の中では特にいい。弱い立場の下町工場で働く人たちが、権力者（大企業）立ち向かう。卑劣な権力者に最後は打ち勝つ、単純だけど、爽快感が残る。

話を戻すと四六時中感染者の報道ばかり。本当に区切りは必要。安易な言い方ではあるが、色々な策を講じた中で感染者が出てしまったらしょうがない。リフレッシュもしないともたない。

三野●リフレッシュは本当に必要ですね。今回の対談の件で中田さんからもらったメールにも題材案として書かれていた『ウィズコロナ』について。政府が言いたいこともわかりますよ。ただウィズコロナと言っても、具体的な提案がない。政府からは語録、言葉だけに感じる。正直しんどいですよ。車で町を走れば発熱注意看板が目につく。『欲しがりません、勝つまでは』というわけではないですが怖いんですよ。具体的な中身が示されない、お上の言っている事に従いようがない。

■ ちぐはぐな国の対応～自粛・言葉の迷走～

中田●自粛は要請。強制力はないはず。メディアでは朝から晩までコロナの報道。それも数字だけで危機感を煽られている。日本の国民性もあって結果的には自粛に従っている感じはする。個々人の生活までお上が要請する、実際は介入です。腹が立つが従う自分がいることも事実。正直、何も考えずに従うのが楽。発想力を低下させて従うのは怖いことですね。

アメリカでは、感染症が拡大している中で「黒人死亡事件」に対して多くの市民が抗議の声を全米各地で挙げている。物いうときは言う国民性はさすがだと思ふ。あれが日本だったら容赦ないパッシングにあうだろう。メディアは、抗議デモの報道はするが、論評は一切なし。

このような光景をみていくと、我が国は、何か「翼賛的傾向」の社会になっているのでは？…この事態は食い止めなくてはならない。

三野●言葉だけが先行して具体的なことは何もない。政府の話だけでは我慢の仕方がわからない。しかし、我慢の一方でGOTOトラベルキャンペーン。矛盾を感じてしまう。マスクをしていればいいのか？政府としてやらなければいけない政策はわかるけれどもバランスが悪い。

中田●国民としては知る権利がある。しかし国からは説明不足。これからどうするんですかという思い。希望の光を示してほしい。

三野●政府からは現場の工夫や意見を聞かずに示されるテレワーク推奨の指示。福祉で話した就労継続支援B型（以下、B型とする）なんてテレワークできませんからね。そんな状況下でも何かあれば現場の責任。なんだかやり切れませんよ。

中田●かくも迷走。かくも脆い。今後もそう。

三野●私の家族の話をする、小学校が6月から授業再開した。そして修学旅行もあると聞きます。しかし行く行かないの判断は各個人や各家庭に一任。「国と同じだな」と思ってしまった。5、6年生ぐらになれば判断できましょ。でも本当は行きたい。友達が行くなら行きたいと思って普通です。他方、家庭での判断となると、親としては心配で行かせられない。子供の気持ちも考えてしまうし…難しいですよ。

中田●この現状で息抜きをしようとしたら外に出たいですよ。これを個人の責任にされてしまうのはいかなものかと…お上にはお上の責任があるのではなからうか。

しかし、給付金制度は金がもらえる点ではうれしかった。けど、課題は残されたと言えますね。

- 三野●給付金は届きましたね。しかしながらアベノマスクは考えものですね。
- 中田●マスク配布の200億。市場に出回ったあとだと考えると…なんやの？
- 三野●考えればわかることだろ、とってしましますね。
さっきの「GO TOキャンペーン」。あれ、前倒しですね。今じゃないだろ…
- 中田●もう決めていたことだからやめられない。観光業が死んでしまうから「国民に旅行しろ」と。もう無茶苦茶な「論理」。それで政治が動き、人も動いていく。国民はさほど異論を唱えない。
不思議なことが起きていると感じる。
- 三野●戦争でいっぱい人が死んでいる。同じことでは？ちょっと空気抜いたらいっぱい感染者が出る。
当たり前のことなのに、それも個人の責任にされるのは？…
- 中田●医療の専門家と政治、それに一番大切な国民意識とがかみ合っていない！
- 三野●今、しきりに国が言っている新しい生活様式…ってな具体的にはなんだ？とってしまします。メディアはそのことをもっと取り上げてほしい。「新しい生活様式を採らないと、本当に危機的状況です」と放送しているところは少ない。なんだか悲しげな・恐ろし気な音楽を流してコロナの事を放送している場面を見ると、ただの演出じゃないかと感じてしまします。
- 中田●感染症の専門家が出演していても、毎回同じ人で局のお抱えではない
かとの疑問。現場は大変なんですよ。世の中の中小企業や通所施設は仕事がなくなっていますよ。
- 三野●このことは福祉で言えばB型で起こっている。下請け、孫請けの仕事がなくなり自社製品を作る。しかし、コロナで通所者が減り、作ることもできなくなる。『ほらみたことか。テレワークを推奨しないから』…そうではないはず。
- 中田●コロナの件で、弱い立場の人が割りのあわない目にあるのを再確認させられた。このようなこと、メディアは取り上げない。
このような状況を我々が声を上げても政府は動かないだろう。大阪府知事が『経済再生しないと死人が出る』といった発言は、確かに一理ある。経済再生については確かに大事だけど大企業はテレワーク推奨で成り立つ面があるが、中小零細企業は成り立たないだろう。障がい福祉、介護福祉も考えられない。よくメディアは無関心でいられるなどと思いますよ。多角的に物事を見ていきましょうといった報道はできないものか。
- 三野●経済再生、経済危機と言われていますが、その前までの日本経済は良かったのか？仮に良かったとしても恩恵は感じられなかった。好景気だと言い張っていたのではないか。好景気と言われる中で苦しんでいる人は…それでよかったのか。命にかかわる事だから給付金の10万貰うのもいいかもしれないけど、自助努力だけでどうにもならない人を支援すべきではないか。

■コロナ禍から何を教訓化するのか？ ～過去を含めた検証を～

- 中田●ふってわいたような危機的状況。こういうときこそ、メディアが多角的視野に立って物事をみていく役割を担わなければならないはずなのに期待薄。国は、経済再建に軸足をしびれをきらして移し替えたようだ。
確かに経済の問題は軽んじられるべきではない。多くの国民は経済的収入によってメンを食っているのだから…しかし、いつ、いかなる時代状況の下でも「経済、ケイザイ」。その経済成長が人の「生活や幸せ」の物差しになるとは限らない。
- 三野●ホンマそのとおりです。これまで経済が下火になってから「格差」、「分断」傾向が社会の課題になってきている。この事実の検証がされなければ…
- 中田●10万はモウケモンだけど…個人的生活レベルで言えばカミさんと2暮らし。そんなに生活に困ってるわけでもない。ただ、感じるのは、年収1,000万稼いでいる人は、10万をそんなにありがたいとは思わないはず…派遣労働で解雇になってその日の生活に苦しんでいる人にはありがたい10万円。今、教訓としたいのは、10万円はもう済んだこと。この最近の出来事についても迅速に検証していく必要があるけど、その心配すらない！
- 中田●これから、もっときめ細や施策が実施されなければいけないと思う金銭面においても、弱い立場にいる人、日々の生活に困窮している人たちに手厚い支援をする。例えば、500万円以上の年収者には金銭的支援はしないと、こういうことに国民は反対しないはずだと思うんですが…
- 三野●うちは4人家族なので40万。多いのはいいけれど、少し疑問が残ります。1人の10万と4人の40万。一人当たり同じ10万だけど遣う質が違う。
- 中田●困窮している人にとって10万はで1ヵ月もつかどうかの生活費。
- 三野●学生にとって10万という金額はいつまで持つ？ってこと。バイトで働けない、入携帯代も払えない。通信料払えないからZoom授業にも参加できない。ほんと悲惨ですよ。

- 中田●10万円支給で迷走し、緊急事態宣言解除で経済再建を優先し、GO TOトラベルで先走った。ほんと国は何を考えているのか？国民もわからなくなっている。だからこそ、今、三野さんが指摘した過去にさかのぼった振り返り・検証が求められているんでしょね。
- 三野●コロナウイルス感染症拡大で相談窓口やPCR検査が問題になっているけど、90年代、保健所の再編が行われ、減らされてきた。圏域1カ所ということになり、人員削減がおこなわれた。市町村が保健センターで業務の肩代わりをしてきた。でも、そのツケが今、現れている。こういうことにもメスを入れていくことが大事。そうでないと今後に生かされてこない。
- 中田●そのとおり。児相問題もしかり。コロナ問題でも県に問い合わせると「市町村に聞いてくれ」、市町村に電話すると「県にきてくれ」と言われる。どっちが責任をもって対応するのかさえ、あいまいな状況で現場がとまどってしまうことがしばしばあった。人手が足りなくて忙しすぎる場所もあるのでは？…予測が甘すぎたんでしょかね…
- 三野●昔のままであれば、もっと市・県で動けた。公的機関の効率化といいながら、きめ細やかな市民サービスができなくなっているのが現実。「今いない」からといって削ったサービスの弊害です。
- 中田●過去からの検証が必要、それは今やることと、将来的にコロナ禍が一段落した後、多分野にわたってやること、二通りの検証作業があると思います。経済の問題にしても三野さんが言われたバブル以降の経済は決して順調な成長を成し遂げていない。しかしながら、国は相変わらず「経済成長」を主張し続ける。現実には「ゼロ成長」でよし、「マイナス成長」になっても仕方ないくらいの姿勢でないと「成長」を夢見るかぎり、どこかで矛盾がでてくる。そのシワヨセはいつも国民、特に「弱き立場」におかれている人たちに回ってくるんです。
- 三野●この間、進められてきた官から民の方向、間違っていないかもしれないが、民に任せるなら金と権限が必要。
- 中田●さっき言った児相（児童相談所）も同じ。思い切って民間に委託する方法もある。ノウハウをしっかりと身につける必要があるが、民間にもできる能力はあるはず…民間は、サービスの基本的な部分を行政以上に持ち合わせていますよ。
- 三野●官の様々な部分の見直しがこれから必要になってきます。「箱」にお金流して出来高。これでは資源として活用できなくなる。

■まとめに～言い放しの話～

- 中田●話はずきませんね。時間は大丈夫ですか？そろそろ、まとめに入って生きたいのですが…「まとめ」も言いたい放題で構いません。とにかく、「自粛、自粛」でどこかでガス抜きしないと…ストレスが溜まっていくばかりで…
- 三野●県内ならまだマシ？動くなってことじゃない。
- 中田●メディア報道で連休中、草津温泉に東京ナンバーの車がドッと押し寄せている光景をみると、不思議な感覚になる。来ちゃいけないんじゃない…東京、「GOTO」の対象外なのに？おかしな現象だが、「どこかへ行きたい」という気持も十分に理解できる。旅館は「こないでください」とは言えない。群馬県民が、東京ナンバーの車をけ飛ばすようなことがあってはならない。
- 三野●連休に家族で3密が避けられそうな中之条の「苔のある公園」に行きましたよ。草津方面に向かう東京ナンバーの車がひっきりなしに走ってました。家族して出かけて楽しみたい気持ちは、こういった状況でも自然な行動だと感じました。これから、盆休みの帰省、父がケガしていて心配なので大阪に帰りたい。車は高崎ナンバー…実家のある大阪・京都での反応はどうか？蹴とばされたりしないかなど、いろいろ考えてしまう。
- 中田●詳しくは知らないけど、旅行費用は通常の半額くらいでいけるとか…。子供たちの夏休み中、せめて家族旅行くらい行きたいですね。欲を言えば、個人旅行も考えたい。このようなご時世だから、せめて個人の移動の自由くらいは権利行使したい。
- 三野●温泉で風呂に入りたいけど…行かない方がいいのか？と揺れています。長期戦の様子…凸凹が増えたり減ったりして2数年位続くかも？と思うと一市民として乗り越える方法を考えなくては…
- 中田●そうですね。当面、出口が見いだせない状況だから…
- 三野●コロナとの共存をボトムアップして…。手洗い消毒なんかは、生活の中に定着するんじゃないか。
- 中田●ずっとマスク生活ですか？イヤですね。

- 中田●課題は山積みされていますね。ワクチンだって一年後に開発されたとしても、その時点でウイルスが変容・進化していて効かないってこともあるうる。
- 三野●だから、「新しい生活様式」と国がいても単純には受けづらい。国も懸命にやってくれないと…今のようなバラバラな政策じゃ国民は納得しない！いつまで我慢しなきゃいけないんだ！
- 中田●厳しい状況だけど、楽しく生きたい。難しいかもしれないけど、ある程度「見通し」があれば…我慢する意味をいってあげれば…我慢にも「ある価値」がみいだせるっていうこと。それが国や政治の役割でしょ…それが示されないところではストレスが溜まるだけ…朝、目覚めたとき、爽快感が感じられなくなる。これって相当ピンチな事態なんだと思う。
- 三野●みんなのメンタルヘルスがヤバイ状態になる。
- 中田●やはり戦後最大の危機かもしれないですね。
- 三野●長期化すると、多分、長期戦になると思うんですけど、そうなると国民は、相当ストレスを抱え、大変なことになることが想定されます。国はこういうことに対し何もやってくれないでしょう。
- 中田●政治だけにまかせてはおけない。我々の戦略が求められている。
- 三野●政府の政策には基本、協力しつつ、意にそわない政策には距離をおいて、必要なことをやっていくことじゃないですかね。
- 中田●さっき温泉の話がでたけど、「Go To トラベル」で受け入れ側は、感染者を出ないため、ルールを決める、旅行者は、できるだけルールに従おうとするのだが、風呂に10人入るとアウトになりますよ。これは、旅行者の自主的判断に委ねられるんですかね。
- 三野●温泉に入って出た後、消毒する？冗談のようなことが起こっています？
- 中田●人にとって「楽しむ」ってこと、気持的に自由でのんびり、誰からもわずらわしく言われないことが基本ですよ。
- 三野●それと、長期戦になると、ワクチン開発が大きなポイントになってくると思います。製薬会社がさかんに開発しているようだが、いつ頃なのか？ホントに安心できるのか？専門家ではないので、よくわからないところがありますね。ウイルスの正体もうすうすわかってきた程度。
- 中田●コロナウイルスの特性かもしれないけど、情報が少なすぎるし、どれがホントのことなのか？もあやふや。
- 三野●わからないから不安になるし、一方で「わからないもの」に注意しても無駄じゃないか？ってことにもなる。
- 中田●ゲームチェンジャーがワクチン？それ、まずいんじゃないか？製薬会社の何かを感じてしまう。全体が見通せないから柵をつくりまくる。どないしょって感じ…それでもワクチンには期待してしまおう。
- 中田●人類は、歴史上、感染症にはなんとか打ち勝ってきた実績があるので希望はあるけど…
- 三野●怖がりながら怖がらずに、子供たちと食事行きたいけど、今はパンでも買って帰るかってなっています。これが続くと元気がでなくなるのも怖いことですね。
- 中田●家族がいると、ほんの少しでも幸せを感じられる。一人暮らしだったらきつい。それに言い忘れたけど、コロナ禍の中で「悪の集団」を作り上げる発想が目立っているのは残念ですね。「パチンコ屋とそこに行く人たち」、次は「新宿、夜の街（関連）」…ここは「悪の集団」で近寄らないように！と。果ては、パチンコやる人はギャンブル依存症だと。
- 三野●アホちゃうか。そんなわけないだろ。新宿は、昔も今も庶民の街なのに。何処にでもある街。言い方が変。接待を伴う飲食店って…なんのこっちゃ。
- 中田●政治家や官僚たちは、接待を伴う飲食店に行かないの？行く人は悪い人なのか？と言いたくなる。
- 三野●このままだと、映画撮影、クラシック、ライブ、文化が衰えていく。エンターティメントは不要・不急だとなると伝承してきたものが途絶える。あまり、関心なかったけど高校野球も春・夏と中止には驚きました。
- 中田●いやあー話がつきませんね。
私たち市民一人一人がコロナ禍と向き合い、意見や声を出しあいながら危機を乗り越えていく必要がなんだと再確認しながら、そろそろ終わりにします。まだまだ話したいことあるような気がしますが、また、次の機会にしましょう。今日はお忙しい中、ありがとうございました。

2時間を超える時があつという間に過ぎ、対談は一区切りついた。コロナ問題でいろんな意見・考えが飛び交った。まだ、話したいことがあるような余韻が残った。それほど、今、私たちは、先の見えない「危機的状況」におかれているのだろう。それが「どれほどの危機」かも知らされず、わからない状況のまま…

7月27日に行われた対談以降、編集作業に入った現在、コロナ感染は圧倒的な勢いで拡大している。この問題は、福祉現場で働く私たちのみならず、市民全体の課題でもある。更に多くの人たちと語り合い、私たち市民の声を発信していきたいと思う。

ニュースレター編集委員会

群馬県太田市鶴生田町733-123

TEL:0276(20)2509

FAX:0276(20)2510